

決算のお知らせと今後の対応について

7月18日に開催した組合会で令和5年度決算が承認されるとともに、今後の保険料率の対応等について説明していますので、その概要をお知らせします。



決算の概要

1 健康保険の決算

健康保険の料率

健康保険の料率は、高齢者医療制度への負担金(以下、納付金)などの支出増加に対応するため、令和5年度に健康保険料率を78%から8%引き上げて、86%としました。

経常収入

経常収入は健康保険料率86%への引き上げ等により、保険料収入が大幅に増加したため、148・8億円と前年度比17・5億円(13・3%)増加しました。

経常支出

経常支出は、145・9億円と前年度比6・3億円(4・5%)増加しました。なお、内訳は次のとおりです。

- 1 健保組合を運営するための事務費は、0・7億円と前年度比ほぼ横ばいでした。
- 2 保険給付費は、総額74・3億円と前年度比4・6億円(6・6%)増加し、被保険者一人当たりの給付費も前年度比4・3%増加しました。
- 3 納付金は、総額61・4億円と前年度比1・4億円(2・4%)増加しました。前期高齢者(65歳以上)の納付金は24・3億円と前年度比1・1億円(4・8%)増加、後期高齢者(75歳以上)の支援金は37・1億円と前年度比0・3億円(0・9%)増加、退職者給付拠出金は0・1百万円と前年度比ほぼ横ばいでした。
- 4 各健保組合の独自事業である保健事業費は、総額9・4億円と前年度比0・2億円(2・6%)増加しました。

今後の対応について

1 健康保険の対応

今後の保険料率を検討するうえで主要な支出項目である納付金や保険給付費は、高齢化や先端医療の高度化を背景に今後増加することが避けられない状況になっています。

令和6年度は料率を86%のまま据え置きましたが、令和7年度以降、収支が悪化していく場合には料率の引き上げが必要と見通しています。料率引き上げを実施する場合は引上げ幅については、諸情勢を的確に把握して慎重に検討を進めてまいります。

2 介護保険の対応

介護保険は健保組合が国に代わって保険料を徴収し、介護納付金として国に納付するものであることから、介護保険の料率については、各年度の必要料率を確保することを基本としています。

今後も納付金の負担増や医療費の増加など、健保組合にとって厳しい環境が続くものと思われ、健康保険、介護保険とも適切に納得感のある料率水準となるよう検討してまいります。ご協力よろしくお願いたします。

2 介護保険の決算

介護保険は、保険料率を18・4%のまま据え置きとしています。保険料収入は21・9億円と前年度比0・6億円増加し、納付金は19・5億円と前年度比▲0・6億円減少しました。このため、その他の収支を含めた収支差額は、前年度に比べ1・2億円増加して2・4億円の黒字となりました。

経常収支および総合収支

当健保組合は従来から健診等の疾病予防事業に資源を集中しており、特定健診・特定保健指導、データヘルズ計画について着実に取り組みを推進しました。

経常収入から経常支出を差し引いた経常収支は、前年度比11・1億円改善して、2・9億円の黒字となりました。経常収支に経常外収支を加算した総合収支(別途積立金の繰入を除く)は、5・4億円の黒字となりました。

内部保留

総合収支の決算残金は、所要の繰越処理を行い、残額を繰越剰余金となる「別途積立金」として積み立てました。

この結果、「法定準備金」が27・8億円(前年度と同額)、「別途積立金」が32・8億円(前年度比5・4億円増加)となりました。

この結果、「介護準備金」の期末残高は7・5億円と前年度に比べ2・4億円増加しました。

お薬代 節約できるジェネリック

覚えておきたい医療のかがり方



今も出費が多くて困っちゃうわ。医療費も節約できたらいいのだけど...

ジェネリックにすればお薬代が安くなるぞ。長期服用しているお薬は、とくに節約効果抜群じゃ!

それは助かるわね! でも、安いお薬ってなんだか心配ね...

ジェネリックが安いのは品質が劣るからではなく、研究開発費が先発医薬品ほどかからないからじゃ。有効性や安全性は先発医薬品と同等であると認められているから安心なのじゃ

令和6年10月から 先発医薬品を希望すると負担増に

10月以降、ジェネリック医薬品がある先発医薬品を希望する場合は、ジェネリック医薬品との差額25%にあたる金額を患者が負担することになりました。あえて先発医薬品を選ぶと、従来よりも自己負担額が高くなります。

*対象となる先発医薬品は、ジェネリック医薬品の発売から5年以上経過した薬、またはジェネリック医薬品の使用割合が50%以上となった薬。

〈例〉	薬価	自己負担額(3割)	
		令和6年9月まで	令和6年10月から
先発医薬品	500円	150円	50円増 → 200円
ジェネリック	250円	75円	変化なし → 75円

健康保険 組合状況

年 度	令和4年度	令和5年度	増 減
健康保険料率	78.0%	86.0%	—
被保険者数(3月末)	25,317人	26,279人	962人
被扶養者数(3月末)	16,052人	16,175人	123人
扶 養 率	0.63人	0.62人	▲0.01人
被保険者平均年齢	44.84歳	45.11歳	+0.27歳
標準報酬月額(年間平均)	409,222円	413,500円	+4,278円
総標準賞与額(年間合計)	487億円	493億円	+7億円

健康保険

経常収支差引額と内部留保残高の推移

(単位: 億円) <参考>

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度見込
経常収支差引額	▲4.3	▲0.3	▲10.1	▲8.2	▲2.9	▲10.4
<内部留保>						
法定準備金残高	27.8	27.8	27.8	27.8	27.8	27.8
別途積立金残高	37.8	40.5	33.5	27.4	32.8	24.4

介護保険

収支(前年度比較)

(単位: 億円、%)

	令和4年度実績①	令和5年度実績②	増加額②-①	増加率②/①
保 険 料 率	18.4%	18.4%	0.0%	0.0
(+) 介護保険収入	21.3	21.9	0.6	2.7
(-) 介護納付金	20.1	19.5	▲0.6	▲3.1
(土) そ の 他	▲0.0	▲0.0	▲0.0	—
収支差額	1.2	2.4	1.2	—
介護準備金(積立率)	5.1(298%)	7.5(447%)	2.4(149%)	47.6

健康保険

収支(前年度比較)

(単位: 億円、%)

<参考>

主要項目	令和4年度	令和5年度	対前年度増減額	対前年度増減率	令和6年度見込
(+) 保 険 料	131.2	148.6	17.4	13.3	146.7
(保険料率)	(78.0%)	(86.0%)	(8.0%)	(10.3)	(86.0%)
経常収入	131.4	148.8	17.5	13.3	147.1
(-) 事 務 費	0.7	0.7	0.0	4.4	1.1
(-) 保 険 給 付 費	69.7	74.3	4.6	6.6	76.2
(被保険者1人当たり・千円)	(272.7)	(284.6)	(11.8)	(4.3)	(293.6)
(-) 納 付 金 (拠出金)	59.9	61.4	1.4	2.4	70.1
(前期高齢者納付金)	(23.2)	(24.3)	(1.1)	(4.8)	(30.9)
(後期高齢者支援金)	(36.8)	(37.1)	(0.3)	(0.9)	(39.2)
(退職者給付拠出金)	(0.0)	(0.0)	▲0.0	▲53.0	(0.0)
(-) 保 健 事 業 費	9.2	9.4	0.2	2.6	9.9
経常支出	139.6	145.9	6.3	4.5	157.4
経常収支	▲8.2	2.9	11.1	—	▲10.4

<経常外収支>

(+) ①別途積立金繰入	15.0	10.0	▲5.0	▲33.3	15.0
(+) 財政調整事業交付金	1.7	1.8	0.1	5.9	1.4
(+) 高齢者医療助成金他	0.5	0.7	0.2	31.2	0.6

総合収支	9.0	15.4	6.4	71.4	6.6
総合収支(除①別積繰入)	▲6.0	5.4	11.4	—	▲8.4

*増減額および増減率は、単位未満の数値を含めて計算した結果を四捨五入して表記しています。